

幼い難民に未来を



発行：幼い難民を考える会 〒150 東京都渋谷区広尾4-3-1 TEL 03-499-1226 ●振替口座 東京1-36227

日本語の勉強が



日本に住むインドシナの人たちを訪ね、日本語や、子どもの勉強の手伝いをしたり、生活相談にのっている訪問ボランティアの活動を始めて1年半。勉強相手から出発した関係が、今では心の通い合いも生まれています。今回は、その交流の一端を訪問ボランティアの報告書からご紹介しましょう。10月現在、23人の訪問ボランティアが、約50家族を訪問しています。

Aさんと日本語の勉強をして

Aさん（女性）に約1年間、私と日本語の勉強をしてみてもう良かったかどうか聞いてみたらニヤニヤしていた。私もカンボジア語を（交流会「ひまわり」で）習っていることを話し、むずかしい発音を教えてもらった。その時のAさんは生き生き

して自信を持っているように見えた。この時、日本語の勉強という私たちの関係が交流というものになった。

[87年12月]

Aさんはとりとめもなく自分からいろいろなことを話した。ご主人は残業をしても15万円から16万円程度でボーナスも少なく、同じように働いている日本人と明らかに給与体系が違うという。

Aさんの内職は電気の部品（コン

交流になった!

セント内部にコイルを巻きつける)で、1個2円50銭。1か月みっちり仕事がある時は3万円くらいになるらしい。

生活は大変だというのが、日本では自分たちががんばれば生活できるから、ずっと住みたいというのは意外だった。兄弟がフランス、アメリカ、オーストラリアにいてそれぞれがんばって生活している。私たちも日本でがんばるよと話してくれた。

[88年1月]

Aさんは内職で手が荒れ、太くなったとしきりに嘆いていた。

カンボジアにいた時、3人のお手伝いさんがいて、洗濯係り、そうじ係り、料理担当の人たちが、1年の年季があけるまで大家族のAさんの家庭を手伝っていたこと等、思い出話をしてくれた。今まで、戦争の苦しい体験をよく聞いたが、のんびり楽しかった頃の思い出話も、聞いて楽しかった。 [88年5月]

Aさんがあせて作っていたおやつができた。ココナツミルクにもち米と果物が入ったもので、甘くておいしく、作り方も簡単のようだ。

家に帰って、普通のお米とくずきりてやってみたが、やはり説得力のない味だった。 [88年6月]



Bさん夫婦と日本語の勉強をして

Bさん(男性)は毎日仕事が大変らしい。日本語の勉強はテストがあるわけじゃないし、よっぽどやる気がないと、平日も勉強するなんてできない。息子さん(小1)の方は、またいつもの子と遊んでいた。私は息子さんに「いつ帰るの?」と聞かれてしまった。よっぽどファミコンがしたいのだろう。奥さんが「何てこと聞くの!」と叱っていた。(息子さんはお父さんから「日本語を勉強している間は、ファミコンをしてはいけない」と言われている)

帰りに駅まで送ってくれる車の中で、Bさんがカンボジアでどのような苦しい何年間かを過ごしたか聞いた。私は、聞いているだけで、何と書いていかわからなかった。カンボジアについて勉強しなくちゃ! [87年11月]

みんながカンボジア語で話している中(みんな日本語を使おうとしてくれるが、もどかしくなるとやはりカンボジア語になってしまう)、私は1人いると、どうしていかわからない。こんな孤独を、インドシナの方々はいつも感じているのでしょうね。

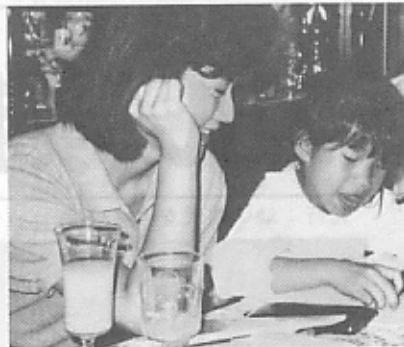
ある母親から聞いたカンボジアでの思い出話

学校……

カンボジアの田舎の子どもは、普通、2年ぐらい学校で勉強します。その後、もっと上の学校に行きたい子は、町にでなくてはなりません。お金持ちの子は、住む所を借りることができず、たいていの子は、お寺に無料で泊めてもらいます。でも、お寺には女の子は泊まれないので、お金のない女の子は、上の学校に行くことができません。

私はもっと勉強したかったので父

に頼みましたが、女の子は遠くの学校へ行かせられない、と言われてあきらめました。その後は、一日の仕事が終わって他の家族が寝た後、一人で勉強したものです。ポルポトの時代は、勉強などしてはいけなかったけれど、私はせっかく習った字を忘れたくなかったので、こっそり地面に字を書いたりしていました。日本に来てどんどんカンボジアの字を忘れていくようで心配です。私の夫は大学まで行ってたくさん勉強したので、字を忘れるようなことはない



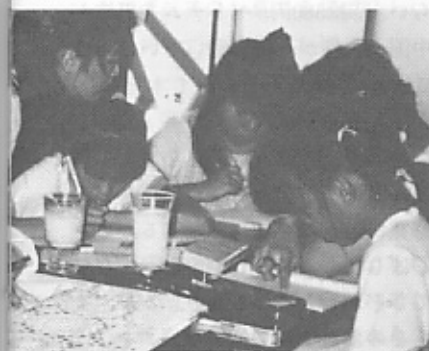
中3の勉強を短期間手伝って

この家庭教師をして感じたことは、10歳という年齢で日本に来て、日本のレベルの授業についていくのは、他人の目からもとても大変であるということだった。もっと年齢が低ければ、それだけほかの子との差は小さかっただろうし、もっと年齢が高ければ、自分の考えをしっかりとって、状況に対応できただろうし、というとても中途半端な年齢だったと思う。しかし、そんな状況に立たされた彼であるが、とてもまじめで優しく、学校の友だち関係もうまくいっているようであった。自分の意志でこのような状況に立たされたわけではないのに、他人に対して、社会に対して、歪んだ感情を持っていないのは、温かく見守るおばさん夫

けれど、私の方は使わなっていると忘れてしまいます。今私の子どもたちは、好きなだけ勉強できる環境にいるのに、遊んでばかり。とてももったいないと思います。

結婚……

私たちの結婚の話が出た時、夫は2~3か月の間、私の家に働きに来ました。彼の働きぶりが私の父の気に入れば結婚を許されるのです。だから夫はその期間、お酒もだめ、煙草もだめ、品行方正にしていなければなりません。一方私の方



婦の愛情、そしてカトリック信者であったということが、とても彼の大きな支えであると思った。

最初は高校を受験する予定であったが、理容師の専門学校一本にしばらく、合格した。今後、専門学校、社会という、今までの生活環境、人間関係とは違った世界へととびたつ彼が、しっかりと自分で自分の人生を歩んでくれることを願います。

[88年1月]

Cさん宅で小学生の勉強をみて

4月も近いというのに今日はとても寒い日です。ブザーを押すとaちゃん(小2)がドアを開けてくれました。今日も小さいお客さんが2人。いつもこのCさんのお宅は、託児所みたいに自分の家の子どもだけでなく、他家の子どもが必ず集

は、その間、家から外に出ることはできません。他の男に会うといけなからです。

カンボジアでは子どもが結婚する時、親は財産を分けます。一番上の子も一番下の子も同じようにもらえます。財産といってもお金というわけではなく、牛だったり、田んぼや畑の一部だったりします。普通、結婚したら、親の家の近くに自分たちの家を建てて、親とは別に暮らします。兄弟のうち一番最後に結婚した子が、親と一緒に暮らすことになり、残った財産を全部もらいます。

まっています。

小4のb君と、小2のaちゃんのお勉強が、コタツを囲んで始まりました。小さなお客さんと赤ちゃんの3人のお守りは、お母さんのCさん。となりの部屋でテレビを見せたり、台所で果物を食べさせたりしていますが、どうしても勉強の仲間に入りたくて、コタツの回りに集まってきてしまいます。 [88年3月]

Dさん宅で中1のEちゃんの勉強をみて

夕食を食べながら、Dさんがベトナムにいた頃のこと、家族のこと、アメリカにいる両親のこと、また、彼のいる会社の人たちがいい人だということ。でも、会社はあまり具合がよくなって、日本人たちも給料が安くて、辞めていく人たちがポツポツいる様子。自分はアメリカへ行って医者になる勉強がしたかったので、生まれただけの息子に、できれば医者になってもらいたいが、学費がたいへんだ…などなど、話をしてくれる。

Eちゃんは、学校の後、病院へ行き、帰ってすぐ夕食の支度。家の中もきちんと片づいているし、中1の女の子にしては実に偉いと思う。食事が済むとすぐお皿を洗い、流し台

仕事……

カンボジアでは、今のように忙しく働いていませんでした。畑の世話や家事と両方はやっていましたが、畑のほうは毎日少し草取りをすればよかったです。果物は売りにだしていましたが、自分で持って行くのではなく、商人がトラックで買いにきました。どの果物も重さではなく、数で値段を決めるので、たとえばバナナの場合は、たくさん房のついたものばかりとってこられると、こっかが損をすることになります。

もていねいにふきとり、私の家よりピカピカ。

ただ一生懸命のあまり、Dさんが缶ビール1本飲むだけで本気になって怒ったり、ゆっくりビールを飲んでいると「早く食べて」とせかしたり…。Dさんは「いつも怒られている。」と笑っている。 [88年3月]



中1の勉強をみて

夕食をすすめられて、今日のごちそうになった。

パリ会談が話題に出てから、ご両親がカンボジアの思い出を次々に語り始めて、雰囲気はなごやかになった。話は狩猟、海水浴、映画、アンコールワット、11月の水かけ祭りなどと広がって尽きず、長居をしてしまった。

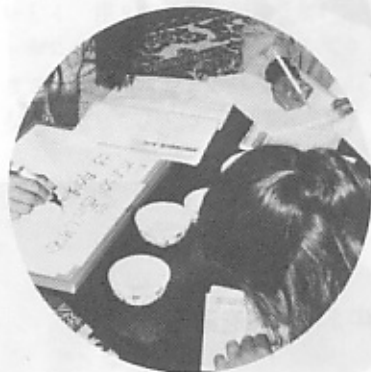
私も、ご両親とこれほど話ができたのは初めてで、とてもうれしかった。ご両親は「カンボジアへの帰国がうわさされているけれど、多分戻れても、自分たちの場所はないだろう。一度は帰りたいが、子どもたちには危険だし、帰りがらないだろう。」と話していた。

帰る頃になってお母さんが、「自分が働いている会社では、いつも、つらかった頃の話をさせられるけど、今日のような話はいいね。いっぱい話したいこともあるし、子どもたちにも伝えたい」と、にこにこしながら語ったのが印象的だった。

[88年1月]

お母さん（在日13年）は、今でも大勢の人の前に出ると、とまどってしまうので、PTAの集まりには出席しないという。個人面接は、子どものことが心配だし、1対1なら、繰り返し聞けばわかるから行くという。

数か月たって、やっと私はお母さんと普通に話ができるようになった。定住した方々と信頼関係を築いていくには、時間がかかると改めて思った。 [88年4月]



4

Fさんと日本語の勉強をして

子ども（8歳、6歳）は日本語が自分の言葉になりつつあるのに、お母さんのFさんはカンボジア語が自分の言葉。定住された方の典型的パターンであると思うが、親子の間に、これが原因で溝ができてぬかと少々不安を感じた。

ご主人は土曜日も終日勤務。他の仕事に変わりたいけれど、日本語ができないからだめだという。長年住んでいても（在日7年）、日本人と話す機会があまりないんだなと実感した。ぜひ日本語を習得して、活動や交際の場を広げてほしいと思った。

[88年3月]

「きつい」という理由で、Fさんはパートをやめ、内職を始めていた。以前聞いた話では、パートの仕事の内容は、鉄パイプを運んだりする重労働であった。それで賃金は時間あ

たり550～570円という安さ！ 今回の内職は、段ボールの箱（贈答用らしい）を組み立て、それに白い布を貼っていくというもので、1個8円。慣れないこともあって、1時間に10個しかできなくて、つまりは時給80円。何気なく捨てられてしまう箱に、そういう人の手間ひまがかかっていることにはっとすると同時に、彼女に、もう少しいい仕事を探してほしいと思っている。 [88年5月]

Gさんと日本語の勉強をして

カンボジア問題が動き出しているということで、日本にいる人たちの間にも期待や希望が大きくなっていくようである。12月2日（1987年）のフンセン、シアヌーク会談のテープ8時間分4本が、コピーされて広く行きわたっているようで、それを出して聞かせてくれる。あまりにも熱意をもって、そのテープの内容等Gさんご主人が話すので、1本半くらい聞いた。

「カンボジアが平和になってほしい」という熱い思いが、そして期待が、日本の定住者の中にも現実味を帯びてきているようで、一時的にも揺れるのではないかと、という思いが胸をかすめるようである。

ご主人は「まず自分が一人で旅行したい。家族皆が行って殺されたら大変だ。」という。同じ団地のカンボジアの人は、「カンボジアに行けるようになったら、職場の同僚を連れていきたい。」と言っていた。Gさんは行きたいが怖い、という気持ちも半分のようにであった。

こんな話を聞いていると、本当に平和になってほしいと願わずにはいられない。 [88年1月]

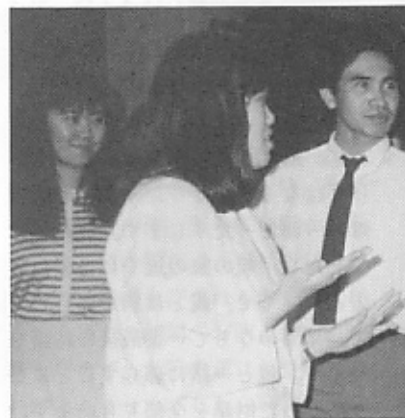
Gさんも今週からパートで仕事を始めたとのこと。何の仕事かはっきりよくわからないが、自分で見つけたとのこと。家から自転車で20分く

らい、時給580円。ベトナム人男性と中国人女性が一緒に働いているとのこと。仕事が見つかって本当によかったと思う。

カンボジアの人は、私たちとは家庭内での仕事、家事、育児に対する感覚が違うのでは、と感じることがしばしばある。外で働くようになってさぞかし大変だろうと思うが、そんなのはあまり関係がない、という風でひょうひょうと切り抜けていくように外からは見えるのだが。

[88年4月]

以前から、Gさんにカンボジアの小春巻の作り方を教えてほしいと言っていたのだが、電話で今日教えてもらうことに約束していた。勉強は6時頃終わり、それから小春巻の作り方を教えてもらう。Gさんはとてもがんばって、小春巻が終わる頃から、黄色い豆を煮出し、今日はカンボジアのもち菓子を作るんだ、面倒だから、日本に来てからまだ一度も作ったことがなかったとのこと。豆が煮えて、豆のあんを作り、白玉粉や他の粉でもちを作り、あんをくるむ。そしてココナツの汁を作る。できあがって食べ始めたのは夜10時すぎ。私は時間をずっと気にしていたのだが、雨も強く降っているし、もう遅いから泊まっていけばいいということで、せっかく一緒に作って楽しい雰囲気の中で去りがたいこともあり、結局、好意に甘えて泊めてもらう。そう決めてからは、おいし



いカンボジアのお菓子を皆で味わい、カンボジアでの話を耳を傾ける。

【88年5月】

Gさんのご主人は、初めの話とは違う仕事に回されて重い物を持ったりますので、とても長いこと続けられない、仕事をかわりたいと考えているとのこと。「会社の言いなりになっていたら良いように使われてしまう。賢くならなければ、日本人の上司とは必要なこと以外あまり口をきかない。」(仲が悪いわけではない。)日本人の仲間とも「そんなにがむしゃらに働いたって、しょうがないし、一服しよう。」とやっているという。

【88年7月】

Hさんと日本語の勉強をして

Hさん(男性)の帰宅に合わせて訪問していると、どうしても食事時とかち合ってしまうことが多くなり、結局一緒に食事をすることになる。だいたいメニューは同じで、和洋折衷ならぬ、和カンボジア折衷で、魚の開き、骨付き肉入りスープ、ソーセージというかサラミみたいなもの、つけもの、とご飯である。どういふわけか、スープがご飯ぢやわんに、ご飯は皿ののって出てくる。いわゆる和風の盛り付け方を説明しようかとも思うが、なんとなくそれはよしている。

【88年5月】



Iさん夫婦と日本語を勉強して

カンボジア語をコンピュータに入力するアルバイトを紹介したところ、奥さんのほうは、「まだ子どもが小さくて保育園のお迎えがあるから、遠い所へ通うのは無理。」と消極的だったが、ご主人のほうは「第一、第三土曜日は会社が休みだからぜひやりたい」と言い出した。

ご主人のIさんは、カンボジアにいた時、教職についていた方で、「もう10年ぐらい頭を使っていないから、少しは頭を使う仕事をしたい。」としきりに言っていた。(アルバイトは面接後、勤める日数が少ないのでだめになった)。

【88年7月】

Jさん夫婦と日本語を勉強して

今日はJさんの長男(中2)の担任の先生が家庭訪問に来られた。

「彼は学習にも、生活面(清掃等の仕事)においても大変熱心で、まじめに努力している。英語などは、私よりよくできますよ。」と先生は言われる。問題は、日本語がまだ不十分なので、数学などでも問題の文章が理解できなくて解けないということ。また、日本語がよく理解できないため、自分の悪口を言っているのではないかと気を回したり、友人との関係で誤解することもある。今一番大

切なことは、早く日本語をマスターすることである、という。彼には、今まで身につけた外国語をなくさないようにとも願いたい、身につけている異質な衣をどんどんはぎ取る日本の教育の世界では、むずかしいことであろう。

【88年4月】

訪問ボランティア募集中!

☆東京・渋谷区(最寄り駅・代々木)

日本語の勉強 平日か土曜日の午後2:45-4:15

☆東京・狛江市(最寄り駅・小田急線狛江)

日本語の勉強 火・木・金・土のいずれかの午後

☆神奈川県・神奈川区(最寄り駅・横浜・鴨居)

日本語の勉強と子どもの勉強 土曜日の午後

☆神奈川・藤沢市(最寄り駅・小田急線長後)

日本語の勉強 平日の夜か土曜日の午後・日曜日

中2、小6、小4の勉強 土曜日の3時以降

(最寄り駅に線名のないものはJR線です)

※上記の地域で、継続的に活動できる人をさがしています。やってみようと思われる方、事務局までご連絡ください。

TEL. 03-499-1226 担当: 峯村





6月19日、若い難民を考える会(CYR)の第8回定期総会が開かれました。

カオイダンキャンプの閉鎖宣言から1年半。キャンプ住民の移動は、そう遠くない将来にありそうです。その後、CYRの海外活動はどのような方向にいくのか、総会午後の部では、「カオイダンに続く海外活動」をテーマに話し合いました。その要旨をご紹介します。

司会(成沢・岡山県会員)：まず、タイ・カンボジア国境地域の現状について、関口さんからどうぞ。

関口(在タイCYR責任者)：現在タイには、8か所のキャンプに約11万5600人の難民がいます。(88年5月UNHCR統計による)。さらに、タイとカンボジアの国境には、約30万人の避難民がいます(UNBRO=国連国境救援機関 管轄)。ここではキャンプで生まれる子どもが増え、人口の30%を、5歳以下の子どもが占めています。87年暮れからタイ政府が、国境でのカンボジア人の小学校教育を認めました。各避難地で同じレベルの教育ができるよう、教員養成に力がいられています。

司会：では、CYRとして、今何ができそうか、代表の話を聞きたいと思えます。

いいぎり(CYR代表)：先週、タイ国境のキャンプのひとつ、サイト2を見てきました。17万人のカンボジア難民が住んでいます。一見、物資は住民の手にゆきわたり、仮りの住まいながら安定しているような雰囲気でした。しかし、国境の救援機関の人たちによると、実際は、そこに暮らす人の精神状態が、極端に悪いところまできているといいます。今年に入って報告された、自殺、暴力沙汰、手榴弾による殺人事件などの件数が、9年前から昨年まで起きた事件の倍になったというほどです。

子どもの世話をする施設は60ほどありましたが、非常に荒れた状態でした。おもちゃがわりの古タイヤがころころ置かれ、ゴザが2~3枚敷いてある。子どもが土で遊んでいるそばで、若い女性が、うずくまって話をしているだけで、もったいない感じてした。この場にCYRの人がいたら、いろいろな場面で指導できるのではないだろうか、という思いをいたる所でした。

その一方、大変元気づけられた場面もありました。CYRは、国境地域にプロジェクトを持つかわりに、難民の自主的な活動を側面から支えてきました。例えば、1980年から国連機関の人を介して、カンボジア難民グループの代表者と、定期的に話し

カオイダン 海外

合いを続け、教育、幼児の健康や発育の問題に関心を持っている人たちに、CYRのカオイダンでの活動例を紹介してきました。驚いたのは、カオイダンで見慣れているCYRの遊具があちこちで作られ、子どもたちが楽しそうに遊んでいる光景でした。これまでCYRのメンバーが、人を介してセミナーを開き、ということが子どもの発育に重要なのか、という衛生上の配慮が必要なのかを説いてきた甲斐があった。CYRは今後もこういう形で貢献できる、と強く感じました。しかも難民の人たちの手で実践され、開発されているところに意義があったと思うんです。

秦(RIジャパン)：今年度の海外活動計画で、「難民の流出によって影響を受けている国境地域の幼児を対象とした活動」とはどういうことですか？

いいぎり：国境地域に住んでいたタイの人たちは、戦闘で難民の流出が起こったことにより、住まいを転々とし、生活環境が激しく変わり、子どもたちにも様々な影響が及んでいるという報告を受けています。CYRとしては、アジア、世界の各地域で、様々な事情により、育つ環境を破壊されている子どもたちの問題を考えるという会の基本方針をふまえて、タイの国境地域で調査を続け、関係者と意見交換をしています。地域の子どものために何が必要かを見きわめ、できることから手がけていくつもりです。

に続く 活動

栗野（東京都会員）：海外活動では、活動計画書に書かれていない地域の調査を行うことはあるのでしょうか？

いいぎり：難民問題は流動的なので、調査が必要であれば柔軟な対応をしていく用意はあります。

見坊（事務局担当理事）：次の活動の方向を考える一つの案として国境地域の話がでしたが、ほかに活動の方向をさぐるために調査をしたことがあれば紹介してください。

関口：タイでの調査例をあげると、1984年に、ラオス難民がいるパンピナイキャンプを調査しました。2団体が保育園と、女性の識字教育に付随した託児所を運営していました。

その後、お互いに活動内容を紹介し、体験を交換しています。しかし、パンピナイでは、CYRは新たに活動は始めないという結論をだしました。

栗野：タイ・カンボジア国境で、CYRができることがあり、その必要性があることもわかります。ただ、それは、あくまでさしあたりで、国境地域に30万人もが長く置かれていることがおかしいわけです。だから少し先を考えれば、限界がくることを予想しながらやる必要があると思います。

私が提案したいのは、今すぐにとことんではありませんが、難民救援の延長として、難民が帰国した後しばらく世話をするという。カンボジアに戻った難民で、CYRが対象として援助できる可能性のある人

はかなりいるでしょうし、必要性もあるでしょう。その意味で、どなたかに調査に行ってもらい、報告をもとに検討してはどうでしょうか。

いいぎり：私どもも、カンボジア国内での調査をいつかできる日が来ればいいと考えてきました。これからも、CYR内部で、もう少し検討を続けていきたいと思えます。

谷沢（東京都会員）：タイ・カンボジア国境にCYRが入れる可能性はありますか？

いいぎり：これまでに国境に入れなかった理由は、新たに民間団体、特に規模の小さな仕事をする団体を入れると、事務処理に手間がかかり

効率がわるいと国連機関の判断からです。またカンボジアの人たちが、自分たちでできる力を損なわないようにするためでもあります。

国境を見た後、国連機関の人に会いましたが、国境での民間団体の新たな活動は考えられないことではないとの話でした。CYRが考えるべきことは、どんなやり方、切り口をみつけるかということです。

国境は、安全上の問題もあるので、アランヤプラテート（CYRスタッフの宿舎がある）に拠点を置きながら、関連機関と折衝していく必要があると思っています。



国内活動への要望

奥山（三重県会員）：CYRは全国に700人近い会員がいますが、定住した人と接する機会があるのは、一部の大都市周辺地域に限られているような気がします。地方にいる人は、会とどう関わっていけばいいか、という問題があると思うんです。同じ仲間を探すにも、どこで探していかわからないし……。個人個人へのアプローチが一番大事だと思うんですが、会は日本全国の会員に対してどう考えているのでしょうか？

笹尾（事務局）：2年ごとに会員名簿を作っていますが、88年度に新たな名簿ができます。地域別になっているので、役立てていただきたいと思っています。

奥山：名簿があれば、同じ県の会員が自分だけではないと知ることができます。しかし、関東ならこうして集まる機会はあるでしょうが、北海道、東北、九州などの人は孤立状態です。会員あってこそ会だと思ってる、個人がどう主体的に取り組めるかが大切ではないでしょうか。国内の活動は、取り組みが弱いような気がします。

いいぎり：おっしゃる通りで、国内のことは歴史が浅いので、ようやくこれからいろんなことができる足場が固まってきたところです。会員の方々とのコミュニケーションは、もっとこちらで強化することができますと思っています。

（一部午前の質問も含め、再構成しました。 文責／編集部）

希望の家レポート



●ゲームに歓声

カンボジアの伝統的なゲーム、ほかの保育園でよく行われているゲームなどを保育者のトレーニングの実習に、とりあげてみました。

まず、ゲームのルールを説明し、みんなが理解してから始めるのですが、やっているうちに、ルールがいまいちになってしまいます。ルールがのみこめていないのかと、もう1度説明しましたが、同じでした。日本人から見ると、この点をいまいちにしては興味も半減するのでは、と思うことも、あまり気にならないようです。

カンボジアでは、男女で手をつなぐ習慣がないので、手をつなぐゲームには困りましたが、恥ずかしがりながらも、楽しそうでした。

保育園でも、いくつかのゲームをとり入れました。ルールがよくわからない子どもも多いのに、年少から年長まで、いりまじって参加し、笑いこぼしてゲームをしていました。近くの子どもや、おとな、学校帰り

の子どもまでが参加することもありました。普段悩み多き顔の人も、顔のしわをのぼして驚喜していました。ルールよりも、「みんなと一緒にやる」ことが楽しいようです。



●糸巻を使った押し車

今まであった肩で押す車は、棒の部分が高い、少し大きい子ども用のものでした。この肩押し車を、やっと歩けるようになったくらいの子どもが、うらやましそうに見ていたり、だれも使っていないときにそとところかしている場面に何度か出会いました。そして生まれたのが、ミシン糸の糸車を竹棒の間にはさみ込んで作った押し車です。1歳半から3歳用のサイズで作りました。

子どもたちに出すと、押し合いへし合いで使いたがり、順番待ちの行列ができるほどでした。この魅力的な遊具は、小さいので保育者の目につきにくく、短期間のうちに子どもたちが押しながら家に持ち帰ってしまいました。

●糸電話でモシモシ

保育者が庭の隅と隅で、20メートルも離れ、ヒソヒソ声で糸電話を使って話しているのを、子どもが不思議そうに見ていました。ある子どもは、途中に耳をつけて、聞こうとしていました。

数日後、隣合わせになっているクラスで、子ども同士が、自然な感じ、電話で話していました。時々同時に話したり、同時に耳を当てたりしていましたが……。



キャンプ生まれて、電話を見たこともない、何をする道具かも知らない子どもたちですが、どういふものと受けとめて話しているのでしょう。

「ハロー ハロー チョムリヤブスワフ」

●お手玉は土色

子どもが、小石をさがしてきては投げ上げて、キャッチする遊びをよくしています。これを見て、使いやすい大きさを考え、保育者とお手玉を縫いました。中には、小石をよく洗って詰めました。

できあがったお手玉を、子どもたちは毎日よく使っています。ある子は、竹の棒の教材と組合わせて、お手玉を投げ上げている間に、竹の棒を1本ずつ増やして、つかみとる遊びをしていました。

お手玉のきれいな配色も、美しくと気くばりをしたのですが、子どもが2、3日使うと、キャンプの赤土で色の区別ができないほどの土色に化けてしまいました。



私がカオイダン難民キャンプでカンボジアの人たちと働き始めてから、もう3年が過ぎました。最初の頃は、この仕事にとっても興奮していましたが、だんだんといろいろなことがわかってくるにつれ、今、私がしていることが、私にできる最善のことだと思えるようになりました。

私はここにおいて、ことばの面でも、人間関係の面でも何の不自由も感じません。だから、カンボジア人と一緒に働くのはとても楽しいし、できる限り長くここで仕事をしたいと思えます。

長い間ここに住まわされている人たちに、このカオイダンについてどう思うか尋ねてみました。みんなは口を揃えて、このいちばんの問題

は、生活の貧しさだと言います。密集した小さな小屋でたくさんの人が暮らすため、隣人との争いが絶えないのです。また、自由がないことも問題です。ここにいる人たちは、自

未来は？

カンボジア
難民の
声



タイ人の目

分の行きたい所へ行くことができず、何かをしたいと思っても、許可されたことしかできません。みんな、とても不安な気持ちで、いろいろ考えるのですが、自分の人生を選ぶことはできないのです。

ここ2年の間にカオイダンは変わりました。以前はたくさんのカンボジア難民が住んでいましたが、ほとんどの人が第三国へ定住していき、今は人数が減ってしまいました。第三国定住は、みんなの願いです。残念なことに、各国の面接を受けて、だめだった人もたくさんいます。

今のカオイダンの状況は、とても不安定です。難民たちが、これからどうなるのか、だれにもわかりません。カンボイ・トングナム

カオイダンキャンプ 年内に移動か？



かおんだんかわら版

七月一日、CCSDPT(タイで活動している難民救援団体の委員会)の会議でタイ国家安全評議会のスウィット氏が、カオイダンキャンプに残された第三国定住のみこみのない人たちを国境の避難地の一つ、サイト2南の南地区バンタットに移動させることを表明しました。

その後タイ政府、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)、UNBRO(国連国境救援機関)、ICRC(国際赤十字)などの話し合いが続けられていますが、国連は、移動先のバンタット地区は、安全性、中立性から賛成できないとしています。サイト2は、国境から数キロしか離れていないため、砲弾を受けることもあり、以前から安全性が問題となつていました。また、人口も一七万人にふくれあがり、過密状態のため、様々な問題が起きています。

カオイダンキャンプには、九月現在、約一万四千人の登録者と、三千人程度の不法入居者がいます。アメリカは、キャンプに四年以上もいる人たち約一万二千二百人に対して、九月半ばから約二か月の予定で、再度定住見直しを行っていません。日本の定住調査団も一〇月二日から八日まで面接を実施し、三六家族が日本での最終審査に残りました。

住民移動後のカオイダンキャンプは、自主帰還センター、技術訓練センターにすることが、タイ政府より発表されています。

しかし、カオイダン住民の移動先、移動の時期、移動先でのプログラム実施団体など、具体的なことは、今後の話し合いを待つこととなります。



カオイダンキャンプ内にあるヤミ市場では、肉、野菜、そうざい、日用雑貨など、だいたいのは揃う。

ロバータ・ピーターズ コンサート

(前ニューヨーク・メトロポリタン・オペラ)

11月27日(日) 15:00~ 銀座セゾン劇場 前売券 10,000円(立食つき20,000円)

お問い合わせ、お申し込みは R.I.ジャパン TEL.03-581-2485 へお早目にどうぞ!

(このコンサートの収益は、難民救援のために使われます)

国際化の前に 必要なこと

東京都
世田谷区



久留 幸子

今、子どもたちをめぐって様々な事件が起きている。いじめ、暴力、非行、かてて加えて、学校の規則のありかたに、種々の問題をふくんでいるように思う。「校則だから」ということで、子どもに有無を言わず彼らの髪を切る教師。挨拶をする際の頭の角度が決められていたり、登校時の自転車の色を男子は黒、女子は白と定められていたり……。女子が黒の自転車では、なぜいけないのか、との素朴な疑問をもつことはゆるされないのだろうか？ 細かすぎる規

則が、子どもたちにも、大人たちにも考えることをやめさせてはいないだろうか？ ルールと偏差値で、子どもたちを管理し、細分化していくことが彼らをより画一的、均質的な方向へ押しやってはいないだろうか？ 子どもたちの間では、ほんの小さな差異が、いじめの対象となっているという。けれどこれらは、私を含めた大人たちの社会をうつす鏡なのだと思う。シンジンルイとか、カセキとか。ジャパユ

キさん、キコクシジョ、ザンリュウゴジなどというカテゴリーの型にはめ込み、はめ込んだまま、自分との関わり方において、その差異を認識しようと努めなかったり、かかわりあうこと自体を避けようとしたり……。今、外からと、上から「国際化」という大合唱が聞こえてくるけれど、日常の暮らしのなかでの「人際化」は可能なのだろうか？

日本に住む 外国人として

大阪府
大阪市



李 ヒジヤ
姫子

私たちが在日韓国・朝鮮人は、通名

と本名2つの名前を持っています。前者は、日本植民地時代の創氏改名の名残であり、日常生活で、多くの同胞が職場で、学校で使っている日本名です。後者は、民族固有の特色をもつ、韓国朝鮮名です。

日常、日本名を使う最大の理由は、民族差別のためだろうと、思われます。その代表的なものが就職差別です。履歴書に「韓国・朝鮮籍」とあれば、日本の多くの企業は、「外国人はお断り」「前例がない」といった理

由を隠れみのに行われている国際的援助は、モニターもままならない状態で、ポル・ポト派の勢力回復、ゲリラ活動に大いに益していると言われているのです。このような矛盾に満ちた現実の中で活動を重ねてきたNGOの人々もはや黙々と働くだけでは大国の利害に翻弄されるこの国の人々——難民、避難民も含めて——に平和をもたらすことはできない、国際社会に対して、あえて政治的内容に踏みこんで発言していかなばならないと判断するに至ったのです。多くの人にこの声を聞いてほしいと思います。そして、カンブチアが国際的孤立から脱し、人々が自ら将来を決めることができ、難民として全世界に散っている人々が、自由に行き来できる日の近からんことを切に祈ります。

しかし一方で、国連の場で西側諸国に承認されているのは、国境地域を本拠地とする、ポル・ポト派を含む三派連合です。そして大量の避難

10



NGO が見たカンブチア

東京都荒川区 小倉 雪枝



エマ・ミシ
野 鳳
J・V・C
監 訳
一、五〇〇円

カンブチアからの大量の難民流出から、既に9年の歳月が流れました。ポル・ポト政権下での大量虐殺も人々の記憶から薄れ、カンブチアその後など、ほとんど伝わってきません。そのような中において、この本は、カンブチア国内及び、タイ・カンブチア国境で活動してきたNGO(民間団体)が、やむにやまれぬ思いをまとめたメッセージの書

由で門を閉ざしています。なかには、日本名で履歴書をだし、採用の段階で、国籍発覚となり、断られる場合もあるそうです。企業ばかりでなく、公務員、専門職にも、「国籍条項」を設けて、就職への道を狭くしています。そのために、ときには日本国籍への「帰化」をする人もいます。(これは簡単なことではありません)

その次の要因は、多くが日本の学校に通学しているため、言葉、歴史等の正しい民族教育を受ける場が、ほとんど無に等しいためだろうと思われる。すなわち、「私は韓国朝鮮人である」という自覚ももてなくなります。それどころか逆に、そのことを嫌悪する場合も多々みられます。これは、民族差別の影響で、まちがった韓国朝鮮観をもってしまっただけではないかと思えます。そして、それが、さらに進むと、日本人であるかのような「同化」へ進んでいくようになります。

ところが、進学、就職へと進むにしたがって、自分の国籍というものを考えざるを得なくなります。あくまで、「通名を使って、日本人になりますか」「私は韓国朝鮮人」と自覚しはじめるか。後者の第一歩が学生時代に行う「本名宣言」です。これは、教師、クラスメートに対して、自らの国籍、本名を明らかにすることです。民族差別の日本の中で、これを行うことは、私たちの間では、非常に勇気のいることなのです。

私の場合、自主的な「本名宣言」でなく、学校の方針により、中学校では本名使用。高校では自主的に、大学では、学校の方針で本名使用は決められていました。現在は、韓国系企業勤務のため、本名使用です。

韓国朝鮮人は、在日外国人最多数を占め、その在日年数最長の歴史をもちます。本名通名問題は、その日本の中で、私たちが置かれている一状況を示すものです。

外から見た日本

在カナダ



家元 庸子

最近のCYRニュースは、流民問題や在日韓国・朝鮮人問題なども取り上げており、興味深く読ませていただいています。

移民が集まってできた国、人種のモザイクと言われているカナダに住んでいると、いろいろな人種の中で生活することが当たり前になってきます。私の住んでいるアパートを例にとってみても、うちの階の4世帯はメキシコ人、ルーマニア人、イギリス人、それに日本人と様々です。日本で生まれた韓国・朝鮮人も外国人扱いする日本の基準でいくと、カナダという国は、ほとんど外国人で構成されているようなものです。英語を母国語としない人もたくさんいるので、英語がうまく話せないからといって、日常生活で差別されることはありません(職種はかなり限られますが)。カナダ政府も、移民が自国の文化を守り、次の世代に伝えていくことを奨励しています。

こちらで、よくこういう話を耳にします。カナダ生まれの日系2世、3世の人たちが日本へ行って、片言の日本語でものをたずねると、彼らは外見はまったくの日本人なので、変な目で見られるそうです。ところが、流暢な英語で話すと相手の態度は一転して好意的になるそうです。ある日系2世の方は、日本へ行ってもすべて英語で通すと言っておられました。そのほうが、みな親切にしてくれるからだそうです。

日本人のこういった英語に対する劣等感から来る態度のちがいが、でも、同じ外国語でもこれがカンボジア語や韓国語、中国語ではだめなんですね。「ここは日本なんだから、日本語を話せ」みたいな態度になってくる不思議な国です。

人種のモザイクと言われ、国としてやっとヨチヨチ歩きを始めたばかりの国、カナダ。一方、そのまったく反対で、ほとんど同一民族で2千年の歴史をもつ日本。その歴史の重みが、日本に住むアジアの人々を住みにくくしているのでしょうか。カンボジア人がカンボジア人として、韓国人が韓国人として、胸を張って日本に住めるのは、まだまだ遠い日のような気がします。

地域でできることを続けて

京都府
宮津市



木船 重昭

世界平和や難民援助のために、毎年、四旬節、降誕祭などの特別献金やカリタス・ジャパンへの献金などを捧げる習慣が、私たちカトリック信者にはある。が、さらに継続的な何かを難民のみなさんにできないだろうか、と考え、遅咲きで恥ずかしいが、「難民援助宮津カトリックの会」を発足させたのは、1985年の暮れだった。1か月のうちの約1日分の食費を、難民飢餓民のみなさんに、祈りをこめて捧げるために、標準額、大人1000円、年金生活者・子ども500円を、毎月献金しはじめた(30分の1運動)。が、まさに名称負けのささやかな会。会員は100名足らずだが、

地方小都市の小さな教会の信者のほとんどを結集し得たことは、うれしかった。

私たち地域の悩みは、過疎化。私たちの会も例外ではない。会員の大半は、高齢者。青少年はごく少数。難民のみなさんへの直接奉仕は、残念ながら、できまい。主として、CYRに献金を委託（寄付）することにした。その献身的で着実な活動に信頼し、敬意を表してある。それに、私たちには、大きな心の痛みがある。かつて、とつぜん、カンボジア難民30名の受け入れを要請されたとき、体制皆無のためにお受けできなかったことだ。恥ずかしいほどのささやかな献金だが、カンボジア難民のみなさんに捧げていただけることは、私たち自身の慰め、喜びである。CYRに感謝している。

昨年秋から、一般市民のみなさんの協力をも求める努力をはじめた。1口100円。毎月継続していただく。友人・知人を頼って訴える。2口・3口・5口の方をも得た。そして、その協力者がさらに協力者を得てくださった。7月現在、65名115口。みなさんの理解と善意がうれしい。この努力を続けていきたい。1口

原稿大募集!!

会員登場に原稿をお寄せください。すすめたい本、現在やっていること、仲間の募集、勉強していること、疑問に思っていること、会への希望その他何でも。

横書き、16字詰で書いていただけると助かります。字数は600～800字程度。顔写真もお願ひします。

100円の協力は、求めやすい。喜んで協力して下さる方が、たくさんいらっしゃるはずだ。要は、理解と善意に訴え、毎月ただきに足を運ぶ、会員の勇気と誠意。それを支えるのは、祈り。

授業で『人間の大地』を取り上げて

北海道
岩見沢市



松浦 芳子

私は北海道の高等学校に勤めている養護教諭です。2年半前、初めて保健の授業を持つ機会がありました。身体各部の働きから精神の働き、心の病いの問題などを経て、「健康と環境」の単元があります。主に国内の公害問題を取り上げているのですが、環境保全は諸外国の人々との生存と生活をも考慮にいたるものでなければならぬとして、「人間環境宣言」や「世界自然憲章」のこともふれているのです。なぜ、諸外国の人々の生存と生活に考慮するのか、そのつながりなど、現実的問題を知り、考えさせる教材として何がよいかさがしていたとき、犬養道子さんの『人間の大地』に出会いました。

授業の総まとめとして、私自身が十分にわかっていないことを承知のうえで、いくつかの部分を読んでいきました。時間の関係で、生徒同士が本を読み合う形式がとれなかったため、教材としてうけとめるまでに、多少のとまどいがあったようですが、読み進むうちに、じっと聞きいつてくれました。私の顔をみつめて、何か申し訳なさそうな困った目をするのは、普段の保健の授業で感じられ

ない生徒たちの反応でした。

保健の授業は、結局1年のみでありましたが、少しでも生きた授業をしたという意識のみが先行し、緊張と力み加わっていたことが思いだされます。

犬養道子さんの著書に出会い、感動したことを、授業で生かすだけでなく、何かの形にしなくてはと考え、カンパ活動を開始することに決めました。今は授業を持っていませんが、学校の場で、保健室で、今後も私なりの学習を深めて、カンパ運動のみにとどまらず、さらに具体的な活動が可能になる方向を追求したいと考えています。そして、すてきな報告ができる日の来ることを期待して、励むことにします。

『人間の大地』

犬養道子著

まだお読みになっていない方へ



「南北問題を真剣に考えなければ、私たちは、21世紀まで生きのびることができない」——ウィリアム・ブラント氏（前西ドイツ首相）のこの言葉は、いったいどういう意味なのか、それを解き明かしてくれるのが、『人間の大地』です。

「南」にいる難民・飢餓民の実状、飢餓が「脅威」になるのはなぜか、われわれは、何を今、ここでなすべきか、の3本の柱から構成されています。とくに、21世紀を生きる子どもたちを産み、育てる女性に読んでほしいと書かれた本です。

◎ひまわりコーナー◎

インドシナの歴史

去る9月17日「インドシナの歴史」と題して交流会ひまわりをひらき、相模原市国際交流協会理事長としてご活躍中の大野力さんにお話をうかがいました。

定住したインドシナの人たちの現在抱えている問題を共に考え、その解決を助けることはとても大切で大変なことです。同時に、彼らを祖国から離れざるをえなくした状況、その状況を生みだした歴史的、世界的背景について知ることも、彼らと関わっていくうえで、必要なことです。しかし、私たちは当面の身近な問題の処理に忙しく、そちらに目を奪われて、つい長期的なグローバルな視野をもつことを忘れがちではないで

しょうか。——大野さんは、そのように私たちに注意して下さったあと、カンボジア難民流出の歴史的要因について話してくださいました。お話をうかがって、「難民問題」は、カンボジア国内の内的要因だけで説明がつくものでなく、カンボジアをとりまく国際政治上の動きに目を向ける必要があることがわかりました。

最近、難民問題は解決へ向けて動きだしていますが、それも、歴史の流れをふまえた、国際政治の動きに対応したものだということです。

また、大野さんは「一口に難民といってもいろいろな人がいる、それぞれが抱える多様な問題に応じて相談をしたいが、その組み合わせ方がむずかしい。そして、国内の定住者のことを考えると、同種の問題をもつ外国人労働者のことにも注意する必要がある」と、おっしゃっていました。

グローバルな長期的な視点からも、身近な短期的な視点からもすべきことは沢山ありそうで、私などは途方にくれてしまいます。私は、NGOは、そして、日本は、何をすべきで、何ができるでしょうか。とりあえず、ゆっくり学び、試行錯誤しながら、個人的な悩みの相談を受けるミクロな視点と、国際政治を分析する視点、共に身につけたいと思います。

記/打越さく良



13

竹の子通信

ベトナムの子供の勉強をみてくれる人 大募集!

こちら関西



みなさまへ、今回は大阪方面での子どもたちの家庭教師募集についてお知らせします。

1. 大阪府八尾市の別宮団地

毎週土曜日の午後、ベトナムの子どもたちのために、勉強会が開かれています。今のところ、小学6年生の子が3人、小学5年生が2人、小学2年生が1人の計6人です。教えてくださっているのは、女性が中心で、各週2人くらいです。

この勉強会で苦心することは、子供の学力がバラバラだということです。そこでマンツーマンの形式が本来はよいのですが、人が足りない状態です。特に、小学校6年生の2人は、まだ日本語がよく理解できません。先日その1人に、日本語を教えているときに、「飛ぶ」という単語でとまってしまいました。私も教え方に困り、持っていた鉛筆をポンと投げて、「これが、飛ぶやでー」と教えたりもしました。

こうしていると、日本語の意味についてもう1度自分も考えさせられることがよくあります。また、子どもたちからベトナムの生活や習慣を聞くのも面白く、子どもたちもそのような話を通じて、教えに来てくれ

るお姉さんたちと仲良く勉強しています。

2. 兵庫県尼崎市の南清水宿舎

この団地には、小学生12人、中学生6人が、家族と一緒に住んでいます。今のところ人が足りないので、中学3年生の女の子の勉強を、2人の女性が見ているだけです。

みなさまのなかで、家庭教師のボランティアをやってみようと思われる方、是非1度下記の所へご連絡ください。待っています。

井上博夫 TEL0726-95-0463

〒569 高槻市東五百住町3-5-3

中村育世 TEL06-621-2187

〒545 大阪市阿倍野区阿倍筋3-4-17-305

記/中野能行

ご寄付

いただいた方々

1988年5月～9月

(敬称略)

北海道

婦山ひとみ (札幌市)
松浦 芳子 (岩見沢市)
口一ス幼稚園 (小樽市)
小山田 彰 (古宇郡)

青森県

佐藤美千代 (青森市)

岩手県

佐藤 重幸 (岩手郡)

茨城県

関口 博美 (牛久市)
佐藤 生子 (北茨城市)
華川キリスト教会 (//)
田之室光子 (土浦市)
稲泉 淑子 (取手市)
山本満喜・泰路(鹿島郡)

栃木県

小玉 優子 (芳賀郡)

群馬県

東別所B地区 (太田市)
藤田喜代子 (高崎市)
後藤 京子 (勢多郡)

埼玉県

富田 清江 (川越市)
柏木三知子 (越谷市)
関 政弘 (所沢市)
八重ゆかり (//)
石山 民子 (入間郡)

千葉県

三輪美枝子 (千葉市)
国府台聖愛乳児園
職員一同 (市川市)
鷺見和佳子 (浦安市)
土谷美知子 (柏市)
篠原 登代 (鎌ヶ谷市)
矢ヶ部留美子(木更津市)
磯島 智枝 (船橋市)
川口 昌宏 (//)
小林 キヨ (//)
関根 錦 (//)
服部 三郎 (松戸市)
濱谷きみ子 (四街道市)

東京都

小坂 一代 (足立区)

井ノ部百合子 (荒川区)
鈴木 恵子 (板橋区)
中村 克夫 (//)
かわず会 (江戸川区)
磯部 昌江 (大田区)
緒方 貞子 (//)
鬼頭 環子 (//)
君島ちよ乃 (//)
鈴木 重子 (//)
瀧川 嘉子 (//)
中村 育民 (//)
国保 征子 (北区)
船木しのぶ (//)
岡崎 光枝 (品川区)
尾平佳津江 (渋谷区)
坂本 恵子 (//)
星田 トヨ (//)
松岡 玲子 (//)
近藤 典子 (杉並区)
佐藤恵美子 (//)
田村 和凡 (//)
渡辺 直子 (//)
安藤知代子 (世田谷区)
池田 透 (//)
大滝 弘子 (//)
笠原 泰 (//)
龜山 泰子 (//)
小林智恵子 (//)
澤田 祐子 (//)
堀 明彦 (//)
山路 圭 (中央区)
皖星学園幼稚園 (千代田区)
小島 礼子 (豊島区)
瀧原 (//)
古屋 寿子 (中野区)
後藤今日子 (練馬区)
武藤徹一郎 (文京区)
カトリック麻布教会 (港区)
櫻並 瑛子 (//)
河野 昌子 (//)
木村 久子 (//)
聖心女子学院みこころ会 (//)
カ石 順子 (//)
富中ルイザ (//)
堀 信子 (//)
天井 静子 (目黒区)
古藤とく子 (//)
坂口 冬子 (//)
枝光学園幼稚園(//)

新倉 和子 (目黒区)
みのり会 (//)
山崎 朋子 (//)
熊谷ことぢ (青梅市)
瀧口 郁子 (清瀬市)
堀内 ツル (小平市)
武藤 好子 (立川市)
堀内俊太郎 (多摩市)
鶴沢 知子 (日野市)
小川 由美 (//)
飯尾香織・美穂(町田市)
藤田れい子 (//)
渡辺 典子 (三鷹市)
佐久間羊子 (武蔵野市)
松原 幸子 (西多摩郡)
柳瀬 仰子 (大島町)
神奈川県
小久保卓二 (横浜市)
小島 美子 (//)
佐野 克行 (//)
志村 悦子 (//)
田島 敏子 (//)
多田寿美子 (//)
田中 仁 (//)
平山 知学 (//)
ドルカスベビーホーム (綾瀬市)
藤井 節子 (鎌倉市)
伊藤 恵子 (川崎市)
海老沢順子 (//)
大坪 進 (//)
高橋 良夫 (//)
平井 幸子 (//)
森戸 潔 (//)
横堀 雅子 (逗子市)
ともしび会(茅ヶ崎市)
柴田 悦子 (大和市)
山梨県
大東香代子 (中巨摩郡)
雨宮 利雄 (東八代郡)
長野県
関口 純也 (小諸市)
新潟県
阿部 清 (新潟市)
富山県
大沢 まり (魚津市)
福井県
廣方 重俊 (福井市)
辻川 捷子 (武生市)
静岡県
南廷宏・敬子 (静岡市)
鈴木 真樹 (浜松市)

関野美佐子 (駿東郡)
愛知県
井上道雄・貞子 (名古屋市)
土田 友章 (//)
森川 恭子 (//)
関口 純子 (小牧市)
伊藤 洋子 (海部郡)
京都府
伊崎 佳明 (京都市)
亀井 正子 (//)
荒賀 房夫 (宮津市)
難民援助宮津カトリックの会 (//)
大阪府
秋田 恭江 (大阪市)
池田 光子 (//)
伊東 峰明 (//)
呑野 佳子 (//)
立石三月子 (和泉市)
今村 輝 (吹田市)
木村 育世 (高槻市)
大杉美耶子 (豊中市)
カトリック聖ヨゼフ布教修道女会 (箕面市)
太田 憲治 (守口市)
兵庫県
神戸平安教会婦人会 (神戸市)
小畑川美樹 (//)
長野 律子 (//)
宮前 峰子 (//)
石渡 要蔵 (芦屋市)
稲畑美喜子 (//)
小川 正子 (尼崎市)
松嶋 吉則 (伊丹市)
浅沼 健一 (宝塚市)
小林聖心みこころ会 (//)
鍵山世都子 (西宮市)
宮沢 朝子 (//)
奈良県
山西 睦子 (橿原市)
岡山県
藪井由紀子 (岡山市)
広島県
井野崎順子 (広島市)
田川 委資 (//)
日本キリスト教団広島教会まきば会 (//)
山口県
藤井 操 (光市)

香川県
田村 保 (高松市)

福岡県
荒川 幸子 (福岡市)
安藤 玲子 (//)
木上 絹枝 (//)
古賀山敏康 (遠賀郡)
伊藤 史子 (粕屋郡)

熊本県
青木 悟 (熊本市)
大津山敦子 (//)
世良喜久子 (//)

大分県
木付智登子 (大分市)
松山まり子 (//)

沖縄県
渡嘉敷 環 (宜野湾市)

海外
木下 心く
木下 由美

住所・氏名・不明
石川鹿西消印、
板橋北消印、今治消印、
荏原消印、新宿消印、
立川消印、鳥取消印
東京中央消印、七尾消印、
三原消印

時枝 裕子 (足立区)
雨宮 はま (荒川区)
鈴木 恵子 (板橋区)
五十嵐寿子 (江戸川区)
上原ひろみ (//)
中澤 正子 (//)
岡 富美子 (大田区)
瀧川 嘉子 (//)
仁科 豊子 (//)
平林みどり (//)
増田 猛 (//)
青嶋 れい (葛飾区)
西村佳津子 (//)
藤田 久子 (//)
嶋田千登世 (北 区)
菊地 永記 (//)
国保 征子 (//)
水野 哲子 (//)
Yoshiko Keene (//)
細田 澄子 (江東区)
月村 保 (品川区)
大野由美子 (渋谷区)
尾平佳津江 (//)
笠原千寿子 (//)
小林 裕子 (//)
巢山 (//)
聖心インターナショナル
スクール父兄 (//)
聖心会第一修道院 (//)
聖心会第二修道院 (//)
聖心会第三修道院 (//)
永井 晴子 (//)
Bouyer (//)
渡辺 (//)
石橋 敏子 (新宿区)
長沢千恵子 (//)
大田原輝和 (杉並区)
鳥栖 良子 (//)
内藤 秀子 (//)
藤野美知子 (//)
山田 清子 (//)
伊藤美奈子 (世田谷区)
大崎ちなみ (//)
小林 道子 (//)
田中 友恵 (//)
平木大三郎 (//)
貞鍋 圭作 (//)
宗像 幸子 (//)

渡辺 (世田谷区)
竹内 友規 (台東区)
菊池 明美 (中央区)
島川 雅子 (千代田区)
今野富貴子 (豊島区)
北條智枝子 (//)
星野 トシ (中野区)
松岡 享子 (//)
財東京カリタスの家 (文京区)
皆川喜代子 (//)
栢木 桂子 (港 区)
坂牧 俊子 (//)
力石 順子 (//)
廣瀬 幸子 (//)
福島あや子 (//)
森本まさみ (//)
Lobo Eleng (//)
飯田 光子 (目黒区)
大塚 恵子 (//)
河村なぎさ (//)
高野 勢子 (//)
野沢 節子 (//)
佐藤 信郎 (青柳市)
木本 由香 (小金井市)
堀内 ツル (小平市)
荒川 洋子 (調布市)
鶴沢 知子 (日野市)
神田 真弓 (保谷市)

神奈川県
有働由美子 (横浜市)
奥村真知子 (//)
片山美恵子 (//)
坂上多恵子 (//)
残間 浩代 (//)
多田寿美子 (//)
頓田 幸子 (//)
藤田 玲子 (//)
横溝小夜子 (//)
荒井 治代 (川崎市)
大野 敏子 (//)
富岡 孝子 (//)
安井 萌美 (//)
山田 祐子 (//)
藤岡 チカ (藤沢市)
一本 成子 (横須賀市)

山梨県
上條 晴夫 (北都留郡)

新潟県
中林 虎三 (新潟市)

静岡県
平田ひろ子 (三島市)

滋賀県
平井 久恵 (大津市)
三橋登美栄 (//)
西谷 靖男 (//)

大阪府
村田 恵子 (藤井寺市)

兵庫県
小副川美樹 (神戸市)
坪谷 明美 (尼崎市)
湯瀬 愛子 (//)
古沢 律子 (加古川市)

広島県
井野崎順子 (広島市)

福岡県
大垣 洋子 (福岡市)
古賀 徳子 (久留米市)

10月の寄付者名簿は、
別刷りになります。

ご協力ありがとうございました。

物品を 寄せられた方々

1988年5月～9月

(敬称略)

宮城県
佐藤 雅子 (仙台市)

茨城県
岩堀 千代 (取手市)

栃木県
鈴木 久 (宇都宮市)

埼玉県
一志 悦子 (岩槻市)
尾口 裕子 (大宮市)
松本 正子 (川口市)
横田 久子 (狭山市)

千葉県
鷲見和佳子 (浦安市)
青木 照子 (流山市)
藤堂 幸子 (船橋市)

東京都
小沢 則江 (足立区)

☆名簿整理、発送を 手伝ってくださる方 いませんが～!

発送物が増えたため、人手
が足りなくて困っています。
名簿整理は、週1回程度、
定期的に来ていただけると
助かります。ワースロが打
てる方、大歓迎です。
発送は、月2日程度です。
手伝ってくださる方は、事
務局へご連絡ください。
よろしくお願いします。

☎499-1226

CYRきのう・今日

タイ・カオイダン

6月10日

いいぎり代表アランヤプラテートで、タイ・カンボジア国境での活動状況を在タイスタッフと話し合う。

6月、7月、8月

カンボジア国境に近いアランヤプラテートの村を訪問。保育園、託児所などで子どもの生活を調査。



8月9日

OHI (車イス、義手・義足づくりとリハビリテーションを行っているフランスの団体) へ洋裁教室で作った紳士ワイシャツ、ズボン、婦人ブラウスを届ける。これは、今年から始めたもので、国境の地雷などで負傷した人たちが、着替えも持っていないため。

8月21~31日

タイ軍、不法入居者の人数を調べられるための呼びかけをし、3000人が申し出た。この人たちは、カオイダンの住人が移動する時、本人の希望する避難地へ最初に移されるみこみ。

8月

CYR サッカーチームを結成。保育者と木工のワーカーを中心に、13名がメンバー。ユニフォームも作って張り切っているが、実力の



ほどは……。

国内

6月18日

国内活動打ち合わせ。いいぎり代表、関西で活動している会員も加わり、訪問ボランティアを1年間続けての感想などを話し合う。

6月19日

第8回定期総会

7月2~8日

関西で定住者の援助活動にかかわっている人たちの初のミーティング。CYRの会員をはじめ、日本語を教えているボランティア、日本語教室を開いている大学生サークルのメンバーなどが参加。

7月8日

長年の海外協力が評価を受け、外務大臣表彰を受ける。



7月16日

第42回ひまわり。小川由美、帰国報告会。

7月16日

国内活動打ち合わせ。訪問ボランティアの報告書の書き方、利用法などを検討。

7月23日

平塚市で訪問活動をしている会員、関係者の2回目の打ち合わせ。小学生の勉強をみている人から、カンボジアの子どもより、日本の子どもが増えている現状が報告される。

7月31日

川口市で活動している団体・個人の初の打ち合わせ。CYRから3人参加。

8月11日

定住者の相談についてアジア福祉教育財団と初の情報交換。

8月20日

国内活動打ち合わせ。日本語学習の教材について。

8月31日

第33回理事会

9月3日

カンボジアのおやつ、ノムコム(ココナッツ入りふかしもち)作



り。今後何種類か作って、料理カードにする予定。

9月12日

定住しているインドシナの人たちへ暮らしの情報を伝えるため、簡単な漢字とひらがなを使った新聞「こんにちはCYRです」創刊号を発行。カンボジア語訳入りと、日本語のみの2種類。

9月13日

大和定住促進センターの62期修生の定住オリエンテーションに参加。CYRの国内活動とひらがなの新聞「こんにちはCYRです」を紹介。ほかに神奈川県で活動している13の民間団体が招かれた。

9月28日

4月から事務局職員に加わった上田広美、カオイダンキャンプで研修のため渡タイ。

〈編集後記〉

8月に、たった1日でしたが、タイのカオイダンキャンプに行きました。希望の家の子どもたちは、人なつこく、手を引っぱって虫の名前を教えてくれたり、腕をからませています。鼻をたらした子が目につきましたが、子どもらしい表情がとても新鮮でした。(じゅん)